

日本共産党
流山東部
後援会

ニュースわかば



市議会の議員定数削減案が否決されました

市議会議員 徳増きよ子

いま、流山市議会の定数は28人です。先の3月議会に、市民クラブが4人削減案を提案、「小数になれば精鋭になる」という提案議員は、「あなたは精鋭か」と問われ「精鋭でない」と答えました。

憲法や地方自治法では、議会は「民意を正確・公平に反映する」ために、人口に比例した議員定数を求めています。いま、17万人人口からすれば32人でも少なく、それを28人からさらに減らせようとするものは、市民から議会を遠ざけようとするものです。市議会は市民に最も身近な議会なのです。

市民クラブは、財政健全化は最優先課題だから、市職員も議員も「身銭を削る姿勢を」といいます。しかし、議会費は流山市の一般会計の0.9%に過ぎず、職員数も千葉県下で最下位クラスの人数です。身を削り、切り込むべきは、おたかの森周辺等の巨大開発であり、開発に連動した150億円の小・中併設校や50億円の体育館等の過大な建設事業の見直しではないでしょうか。こうした市長・市政の監視役であるべき市民クラブの議員は、市長提案に何でも賛成です。これで監視役、チェック機能を果たしているといえるでしょうか。

定数削減案を審議する議会最終日は、3月24日午後1時30分開会、25日午前8時20分開会という異例の議会となりました。提案者が質問者に対して明確な答弁ができず、何度も休憩が入ったからです。

定数4減案は、反対17、賛成9で否決、定数2減案は、反対16、賛成10で否決されました。流山市議会が、議会制民主主義を守る良識を示したのです。



部内資料
発行責任者
竹内和男

Tel・fax:7143-3086



「しんぶん赤旗」日刊紙、日曜版の消費税増税分の負担についてのお願い

(日本共産党赤旗編集局)

読者のみなさん

日ごろより「しんぶん赤旗」をご購読いただきありがとうございます。

安倍内閣は4月からの消費税8%への増税を強行しました。

このため5月からは「しんぶん赤旗」日刊紙、日曜版とも3%の増税分の負担を読者のみなさんをお願いせざるをえないことになりました。税込価格は次のようにさせていただきます。

日刊紙：1ヵ月3,497円

日曜版：1ヵ月 823円

「福祉手当は、生活費や教育費にあてており、なくなったら困る」「27,600円が4ヵ月毎に出るので、壊れた家電製品の補充ができる。福祉手当をなくさないで」...など、悲痛な声が寄せられています。

福祉手当廃止・縮小をやめ、制度の拡充を

流山市福祉手当の目的は、障害者の生活の安定と福祉の増進です。いま、消費税増税や物価高騰のさ中、障害者やその家族の生活の安定にとって、福祉手当はなくてはならないのです。それを市長は、制度発足後35年経過し、福祉手当の意義は薄

れたというのです。意義があるかないかを決めるのは障害者とその家族で市長ではありません。2012年6月「障害者自立支援法」が、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」(「総合支援法」と名前を変えて成立しました。憲法等に基づく障害者の基本的人権の行使を支援する法が求められていましたが、利用者負担は「応能負担」を残し、「障害にとまなう支援は原則無償」「障害者本人の収入に応じ」は明記されなかったのです。

社会保障推進流山協議会
事務局(7158)8317



年金・健保・税金相談



生活苦、リストラ・派遣切り、所得税・住民税など税対策、国保料・介護保険料減免対策、年金・介護・医療の悩み、子育て・保育など

困ったら 迷わず

徳増きよ子 生活相談室へ

相談日 金曜日午後1時4時

電話・Fax 04-7144-1753

議員携帯 090-8432-3141

日本共産党市議会議員
徳増きよ子事務所
松ヶ丘2-330-144 郵便局の通り

突然「放射能対策室」 で「環境政策放射能 対策課」に

「流山市放射能から子どもを守るネットワーク」は、東葛地域の流山市がホットスポットになってから放射能問題について、市への要望書を提出して対策を迫ってきました。その中で、放射能測定、学校などの子どもが利用する施設の除染、食品の放射能検査など、一定の対策は行われてきました。

しかし、福島原発事故から3年が経った今も、原発事故は収束せず、さまざまな問題が解決されていません。これから、山林、河川、畑の除染をどうするのか？食品の安全？子どもの健康問題、等々課題が山積みになっています。そのような時に、突然、流山市は放射能対策室を今年度で廃止すると発表しました。「こんなことは許されない、何を考えているんだ」との思いで、急ぎよ市長へ要望書を提出し、市議会議員各派への要請を行いました。

また、市民は何も知らされていない状況ですので、署名を集めて知らせに行きました。おおたかの森駅、南柏駅で署名を訴えました。市議会は、この問題では党

派を超えて批判が相次ぎ、3月14日予算委員会で市長が「従来どおり放射能対策はすすめる。しかし、組織上、放射能の言葉がなくなると所管課がわからなくなるといふ議員や市民の声に応え、担当部署をわかりやすくするために環境政策放射能対策課」として残す」と答弁しました。

「放射能対策」の名称が残ったのは市民の運動の成果です。しかし、もともと市は放射能対策室を解散して一部機能を環境政策化に吸収させる計画だったので、そこに名称をかぶせただけでもいえるものから、問題は中身です。

新しい課との話し合いを持ちました。しかし、これからどうするのか、何も具体的にされていません。今後5年、いや20年後にも健康被害は続くはず。そのためにも、長期的な視野に立つて職員を育成し、放射能対策を充実させ、問題解決をしていくことを行政に要望していきます。

流山市放射能から子どもを守るネットワーク代表
(向小金) 高橋 光

対市交渉報告

4月2日、「流山市放射能から子どもを守るネットワーク」は、(徳増きよ子、植田和子市議同席のもと)605筆の陳情書を流山市に提出しました。

「環境政策放射能対策課」へ改名されたあと、どのような取組がなされるのかを確かめたかったからです。

「放射能を軽んじているわけではない」、「除染三カ年計画」終了を見据えた今年度の以降の具体策検討や、環境省との交渉は、「これから」また「各学校等から要請があれば」など、印象は消極姿勢でした。「国の政策にならう」でなく、「地元のニーズを見極め地域から中央へ発信する」のが本来の地方自治体のあり方ではないでしょうか？

1986年のチェルノブイリ原発事故後、2001年キエフの国際会議では「事故は終息。今後の影響はない」とされましたが、さらにその10年後の2011年に周辺地域の子どもたちに顕著な健康被害がみとめられた事実を忘れてはなりません。

福島原発の事故は、これらが真に大事な時を迎えます。引き続き放射能対策の充実を訴えていきたいと思います！

(向小金) 矢田春代

ながれやま くらしと市政 アンケート

ベストセラー紹介

日本共産党の深層

大下英治著
イースト新書 920円(税抜き価格)

本の内容は、「キラキラ選挙」でテレビにも何度も取り上げられ、下馬評を覆して参院選で当選した吉良よし子の密着取材をはじめ、市田忠義、小池晃、穀田恵二、畑野君枝、松本善明などが登場、熱意と人柄がにじみ出るような丁寧なルポの部分のほか、日本共産党の歴史と政策をわかりやすく解説している章



「庶民の中には、政権をになうところまで行けという声強い」とは著者の大下英治さんです。

(向小金) 竹内和男

映画を楽しもう！

「レイルウェイ 運命の旅路」

泰緬鉄道というのを聞いたことがあると思います。太平洋戦争中、日本軍がタイからビルマにかけて敷設した鉄道ですが、過酷な自然環境下で、数多くの英国人捕虜が奴隷のような作業をさせられ、多数の死者も出し、「戦場に架ける橋」の映画でも舞台となりました。

この作品の画像は使えません。
(松ヶ丘) 北村真平

この映画は、実際に英国人技術者が憲兵の拷問を受け、35年もの心の傷が癒されず、

